



職業リハビリテーションにおける
課題分析の実務的手法の研究

(調査研究報告書 73)

サマリー

2006年3月

独立行政法人高齡・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

調査研究の目的・方法

職業リハビリテーションサービス（以下「職リハサービス」という。）では、次のような様々な方法を効果的に組み合わせ実施している。

- ・職業能力の把握
- ・職業前の訓練やジョブコーチによる支援
- ・サポートネットワークの構築と機能化等

また、障害者を支える環境のマネジメント等の支援としては次のものがある。

- ・ジョブコーチ支援
- ・職場復帰支援

これらの、環境への支援・マネジメントでは、最近、アセスメントにおける有効な技法の一つとして課題分析を活用している。そのため、より詳細で活用しやすい課題分析の実務的手法が必要となっている。また、このような支援では、事業主のニーズにそのまま応えるような支援の展開だけではなく、障害者の個性に応じた支援を構築することが求められている。そのために、支援者は、より効果的に課題分析の結果を活用していくことが必要となっている。

このような職リハサービスの事業主支援では、次のような様々な場面で課題分析が必要となる。

- ・事業所の業務や職務について情報を収集し分析・活用する
- ・現場で生じる様々な問題・課題に対応するために、物理的・人的環境を分析する。
- ・障害状況に応じた職務の構築を考えるために、新たな職務を創出、複数の職務の組み直し、新たな職務を再設計する。
- ・新たな職務の学習に必要な支援を分析的に計画する。

本研究では、様々な目的で課題分析技法を活用するために、就労支援者のための「実務的な課題分析の手法」を検討・実践することを目的とした。

このため、国内外の先行研究を踏まえて、Hierarchical Task Analysis（階層的課題分析、以下「HTA」という。）の手法について検討し、職業リハビリテーション（以下「職リハ」という。）の事業主支援で課題分析を活用する方法を検討した。まずは、「病院の看護師チームの業務」についてHTAによる「チームの課題分析」を行い、HTAの活用可能性を取りまとめた。さらに、障害者の新規雇用並びに職場復帰に取り組んでいる事業所を訪問して課題分析を実施し、事業主支援の各段階における課題分析の適用内容と方法を示した。最後に、課題分析の方法及び事業主支援における課題分析の活用について分析し、検討を行った。

調査研究期間

平成15年度～平成17年度

調査研究報告書のポイント

職業リハビリテーション支援における課題分析

応用行動分析的アプローチにおける「課題分析」は、「機能分析」の結果から支援方法を具体化する際に必要となる分析方法であり、「一連の複雑な行動を、より細かな行動単位に分け、手順を時系列に沿って記載すること」と定義される。この定義のように、作業の「手順」に代表される「行動連鎖の課題分析」は、課題分析を行う時の第一段階である。加えて、職リハの支援場面では、対象者がつまづいている学習の段階や、その段階を乗り越えるために必要な支援方法等について、指導や支援の方法を段階的に分析して組み立て、目標となる課題（目標課題）が達成できるよう、「学習課題の課題分析」を行う必要がある。また、職リハでは対象者が職場で必要な行動（作業や対人態度等）を、職場に応じて身につけていかなければならない。その場合、対象者は「どのような環境でどのような行動をとっているか」、「どのような行動をどのように学習しているのか」、「その行動にはどんな機能があるのか」等について、また、新たに適切な行動の学習を促す場合には、「どの行動を学習していないのか」、「どんなことを学習させなくてはいけないのか」等について、「機能分析」を行うことが必要である。これらのことから、職リハサービスで支援者は、「個々人の発達や能力の向上、発揮を促し、自立的な生活を送る可能性を高め、社会の中でより機能的な行動の学習を促すこと」が可能となるよう、指導・支援の構築に役立つ具体的で効果的な課題分析と機能分析を行う必要がある。具体的には、事業主支援の各支援段階（図・参照）で課題分析を活用することで、それぞれの支援の目的に応じたサービスを充実することができる。

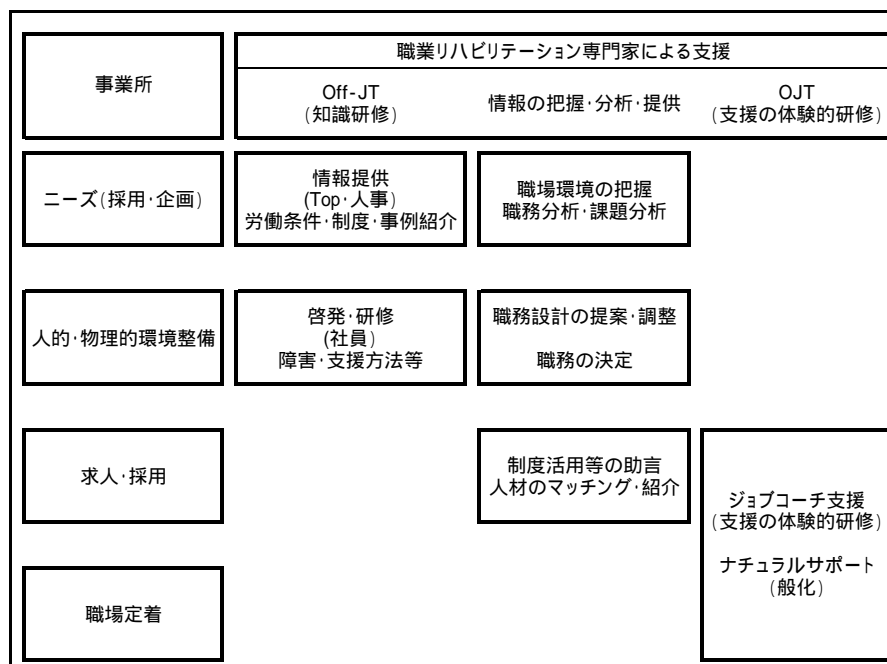


図. 事業主支援の内容と課題分析

事業所の業務の分析に対する HTA の適用

課題分析を拡大していくとき、ある職務や活動に含まれる関連した作業や行動を含めて、その構成要素や行動毎に一つ一つの行動（Step）に分け、時系列的に記述していくという方法を用いる方法があり、複雑な職務のように個人の複数の作業・行動連鎖について、その関連性等も含めて全体的かつ詳細に把握する場合に用いられる。このような複雑な課題分析を実現する方法として、HTA がある。HTA は複数の作業からなる職務や分岐を含む作業、複数人の協働による作業等について分析する際に用いられる課題分析技法であり、学習段階の課題分析技法を取り入れることで、さらに様々なニーズに対応できる方法であると考えられる。

職リハサービスにおける課題分析には、「職務の創出・再設計」や「作業学習」のための課題分析のように、より複雑な職務内容について詳細に分析することが必要となる。これらの分析を行う際に、ある個人の特定の職務のみを分析対象にするだけでなく、複数人の業務体制を対象にした「チームの課題分析（表）」を追加して用いることで、必要な情報を収集・分析することが可能となる場合も考えられる。このため、高度な専門性を必要とする「病棟の看護師チームによる業務」を把握・分析する調査を行い、その HTA による課題分析の妥当性や活用可能性を確認することとした。

この活用事例では、HTA の実施により、HTA 実施者にとって未知の分野の業務を「単独」で概ね分析することができ、比較的短期間で課題点の検討に繋がれることや、改善策を提案するための情報源として機能する可能性が高いことが示唆された。

表 . チームの課題分析の内容と課題分析の情報収集源

分類	No.	項目	資料閲覧	観察	インタビュー	調査用紙記入
チームの組織	1	チームが事業所から課されている目的				
	2	チームが課されている業務内容				
	3	チームの職位				
	4	各職位の役割				
	5	チームの指揮・命令系統				
	6	チームの報告・連絡・相談系統				
職務の属性	7	各職務の目的				
	8	各職務の作業内容と量・頻度				
	9	各職務の難易度				
	10	各職務の重要性				
	11	各職務の分担状況と、各職務の責任者				
	12	各職務の関連性				

障害者雇用の事例への適用

「障害者の雇用促進のための新規採用」では職務創出・職務設計の2事例、「高

次脳機能障害者の職務復帰」では個別の障害状況に合わせた訓練カリキュラムの作成と職務再設計を提供した3事例、計5事例について「事業主支援の流れと内容(図・参照)」に沿って課題分析の活用例を示した。

これらの事例においては、HTAを活用して「業務の把握」「作業工程の整理」「職務の創出・再設計」「作業学習(作業学習課題の設定、作業環境改善、作業支援者の行動改善)」などに関する支援を行い、支援目的はほぼ達成することができた。

これらの事例の適用から、課題分析が事業主にもたらすメリットは3点であった。

作業工程の課題分析結果は、障害者だけでなく、作業に従事する全ての対象者に適用できる。

職務創出・職場再設計のための課題分析は、障害者が実施できる職務内容を明確にすることができるとともに、事業主に障害者雇用も含めて実務に即した組織の検討機会をもたらす。

作業学習のための課題分析の結果は、職務に必要な技能とその研修方法として、事業主の人材育成に寄与する情報となり、事業主に多様な雇用管理の方法を提示できる可能性が十分にある。

残された主な課題

今後、職リハで課題分析を活用するためには、「情報収集にかかるコスト」と「課題分析そのものにかかるコスト」の2つの課題について検討していく必要がある。

「情報収集にかかるコスト」を軽減するには、収集すべき情報をあらかじめ整理しておき効率的に情報を収集すること、既存のデータを活用し情報を収集すること、関係者の協力を得ながら情報を収集すること、等の検討が必要である。

また、「課題分析そのものにかかるコスト」の改善には、PCの様々なソフトウェアを駆使し、課題分析の実施におけるコストを削減しつつ、職務や研修の方針等について関係者の共通理解を図れるプレゼンテーションを実施する、あるいは、これらの課題分析の結果を構造化しデータベース化することで新たな職務に対する課題分析を行う際のコスト削減の可能性の検討が必要である。本研究では、「課題分析そのものにかかるコスト」の低減のための参考として、課題分析を合理化しコストを低減するソフトウェア(「TaskArchitect」)に関する参考資料である「An Introduction to Task Analysis using TaskArchitect (TaskArchitectを使った課題分析入門) - WHITE PAPER」を翻訳、紹介した。

いずれのコスト軽減についても、その具体化については今後の課題である。

主な引用・参考文献

Annett, J. Stanton, N.A. (2000). *Task analysis*. London. Taylor & Francis.

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター (2004). 調査研究報告書 No.57 精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総

合的研究（最終報告書）

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター（2004）.調査研究報告書 No.64 精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究（活用編）

Stuart,J.(2005).*TaskArchitect - White Paper ; An Introduction to Task Analysis Using TaskArchitect*. TaskArchitect inc.

Jonassen,D.H. Hannum,W.H. Tessmer,M. (1989). *Handbook of Task Analysis Procedure*. London. Praeger.

P.A.アルバート/A.C.トルートマン(1992).はじめての応用行動分析. 二瓶社

Patrick J. (1992). *Training Research and practice*, Academic Press.

Patrick.J., Gregov,A, Halliday.P. (2000). *Analyzing and training task analysis*. Instructional Science, 28 (1), 51-79.

Shepherd, A. (2001). *Hierarchical Task Analysis*, Taylor&Francis.